



土木学会会員のメリット



磯部 雅彦

土木学会 第102代会長

土

木学会創立100周年宣言
は「あらゆる境界をひらき、

持続可能な社会の礎を築く」を副題としていきます。土木の総合性をもって、目指すべき持続可能社会の実現に向かおうとする決意です。土木技術者が大成するためには幅広い知識と視点を持たなければなりません。そのため大きな力となるのが、他の優れた仲間と交流することです。土木学会の存在意義、また会員の特典の大きな部分がそこにあるのではないかと思えます。

土木学会の会員の特典は数々あります。毎月送られる学会誌、刊行物・行事・継続教育プログラム等の割引、土木学会図書館の利用、講演会や論文集での発表、デジタルコンテンツの閲覧、海外土木学会を含む情報の収集、社会的な信用など数えきれません。どのような人にとっても、それぞれに関心のあるこれらの一部だけで、会員になることの意義が十分にあると思えます。

しかし、土木学会の会員となることで、土木学会での活動に参加し、それを通じて他の土木技術者と交流することで新しい情報を学び、知恵を獲得することは、上に挙げた目に見える数々の特典よりもさらに重要なものでしょう。確かに土木学会には素晴らしい人材がいます。

私自身、学術講演会に参加して普段は聞かないような新しい言葉や概念に接し、刺激を受けました。委員会の編集小委員会に参加し、専門分野におけるさまざまな知識を知りました。また、土木工学ハンドブックのシソーラスを構築する作業に参加したときには、土木全体を見渡すという、視野を広げるのに最適な活動を行うことができたと感じています。これらは土木学会に集う人々から産み出される恩恵です。

土木学会に超一流の土木技術者が参加していることが、多くの土木技術者や土木に関心を持った人びとを集め、集まった人びとの質の向上に



つながり、若い技術者の人材育成にも役立ち、学術文化の進展と社会の発展に寄与することができます。このことが土木学会の大きな社会貢献につながり、社会での土木分野の存在感を高め、土木学会を支えているとも言えます。

大学において土木工学科の名前がそのまま残っているのは6大学8学科となりました。国家公務員採用試験でも土木職という名前はなくなりました。都道府県庁では、土木部という名称が残っているのは16だけです。しかし、土木の重要性は、これまででも、これからも、続いていきます。そのような状況で、土木学会が最新・最高の土木技術と土木技術者を吸引して「土木」を看板に掲げ、土木の核として技術者を引きつけ、その人びとの活躍によって社会に貢献していくことは今まで以上に大切にしなければなりません。今や、「土木」という看板の相当な部分を土木学会が担っているとと言えます。した

がって、土木という看板の下で仕事をし、生活を成り立たせている人々は、直接的なメリットの有無にかかわらず土木学会の会員であるべきであるという言い方をしてもよいと思います。

鍵は人と人の交流です。これを広げるには、あらゆる場所で、あらゆる活動を通じて、交流の輪を大きくしなければなりません。学会の本部や支部を拠点として、会員が非会員の人びとも活動をともにし、そこから土木学会の輪が広がっていけば有り難い限りです。人と人の交流は、一挙に大量にはできません。会員の一人ひとりが小さな輪を無数に築いていくことが必要です。あらゆる境界をひらき、自信をもって交流を広げ、持続可能な社会の礎を築くために、土木学会の発展を後押ししてください。切にお願いする次第です。